



TRAKTOR KONTROL X1



オペレーション マニュアル



この説明書に含まれる情報は、予期せぬ変更を含み、Native Instruments GmbH の側で責任を代理するものではありません。この説明書によって記述されるソフトウェアはライセンス同意を必要とし、他の媒介に複製してはなりません。Native Instruments GmbH が事前に書面で許可しない限り、どのような目的においても、この出版物のいかなる部分も複製、複写、またはその他の方法での伝達や記録することは許されません。全ての製品・会社名は各所持者の登録商標です。加えて、これを読む人は、このソフトを正規に購入したものであるとします。お客様のおかげで私達はより良いツールを製作していくことが可能になるので、ここに謝辞を惜しむものではありません。

“Native Instruments”, “NI” and associated logos are (registered) trademarks of Native Instruments GmbH.

Mac, Mac OS, GarageBand, Logic, iTunes and iPod are registered trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.

Windows, Windows Vista and DirectSound are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

VST and Cubase are registered trademarks of Steinberg Media Technologies GmbH. ASIO is a trademark of Steinberg Media Technologies GmbH.

RTAS and Pro Tools are registered trademarks of Avid Technology, Inc., or its subsidiaries or divisions.

All other trade marks are the property of their respective owners and use of them does not imply any affiliation with or endorsement by them.

著作・校正: Native Instruments GmbH

マニュアル翻訳: Akira Inagawa

ソフトウェアバージョン: 1.0 (08/2013)

製品の向上とバグ報告に関ったベータテスト参加者に特別な感謝をささげます。

Germany

Native Instruments GmbH
Schlesische Str. 29-30
D-10997 Berlin
Germany
www.native-instruments.de

USA

Native Instruments North America, Inc.
6725 Sunset Boulevard
5th Floor
Los Angeles, CA 90028
USA
www.native-instruments.com

Japan

Native Instruments KK
YO Building 3F
Jingumae 6-7-15, Shibuya-ku,
Tokyo 150-0001
Japan
www.native-instruments.co.jp



© Native Instruments GmbH, 2012. 無断複写・転載を禁じます。

目次

1	TRAKTOR KONTROL X1 へようこそ！	7
1.1	この資料について	7
1.2	資料の注釈について	7
1.3	資料内での各呼称について	8
2	TRAKTOR KONTROL X1 ハードウェア	9
2.1	トップパネル	9
2.2	リア・パネル	10
2.3	TRAKTOR KONTROL X1 モード	10
2.3.1	NHL モード	11
2.3.2	MIDI モード	11
3	TRAKTOR 操作のための X1 の主要機能	12
3.1	一次機能と二次機能へアクセスする	12
3.2	X1 を TRAKTOR に接続する	12
3.3	X1 を使用してトラックをブラウズ、ロードする	13
3.4	デッキコントロール	14
3.4.1	Split モードで Touch Strip を使用する	14
3.4.2	Touch Strip の一次機能	16
3.4.3	Touch Strip の二次機能	16
3.4.4	Touch Strip (Single Mode) のサイズ修正	17
3.4.5	Scratch Control で Touch Strip を使用する	20
3.5	トランスポートセクション (再生、HotCues、Flux、Sync Control) の使用	20
3.5.1	HotCue ボタン	21

3.5.2	PLAY ボタン	23
3.5.3	CUE ボタン	23
3.5.4	SYNC (MASTER) ボタン	24
3.5.5	FLUX ボタン	24
3.6	Loop Encoders の使用	25
3.7	エフェクトセクション	27
3.7.1	エフェクトのアサイン	28
3.7.2	TRAKTOR のエフェクトをトリガーする	29
3.7.3	Touch Strip に FX をアサインする	31
3.7.4	2 台目の X1 コントローラーの FX を使用する	33
4	ハードウェアリファレンス	34
4.1	トップパネル	35
4.2	リアパネル	36
4.3	トランスポート・セクション	37
4.4	FX セクション	38
4.5	BROWSE、SHIFT、Load	40
4.6	Touch Strip	42
5	付録	43
5.1	TRAKTOR KONTROL X1 環境設定 (Preferences)	43
5.1.1	Browse Encoder	44
5.1.2	Touch Strip	44
5.1.3	FLUX ボタン	45
5.1.4	エフェクトノブ	45

5.1.5	LED	45
5.2	TRAKTOR KONTROL X1 Mk1 をセットアップに追加する	45
索引	47

1 TRAKTOR KONTROL X1 へようこそ！

Native Instruments 製品をお買い上げのお客様へ

TRAKTOR KONTROL X1 をお買い上げ頂き、また Native Instruments 製品へのご信頼を頂きありがとうございます。Instruments products.

TRAKTOR KONTROL X1 はポータブルなプロ DJ 仕様の TRAKTOR ソフトウェアコントローラーです。

TRAKTOR KONTROL X1 には以下の特徴があります。

スムーズな TRAKTOR への対応

トラック位置、ピッチベンド、ループ、エフェクトをコントロールする HotCue 機能。

ハイエンドハードウェアとして実感できる高性能ボタンとノブ。

RGB バックライト付きの HotCue ボタンで、視覚的に全体が分かり易くなっています。

MIDI よりも優れた特許付きの高解像度 TRAKTOR NHL プロトコル。

MIDI スタンダードに対応したハードウェア/ソフトウェア用 MIDI 機能

スリム、軽量、堅牢で持ち運びに便利な本体はスタンダードなクラブミキサーに完璧に対応します。

拡張可能性—4 デッキと 4 つのエフェクト・ユニットをコントロールするため、2 台の TRAKTOR KONTROL X1 を接続できます。

1.1 この資料について

このマニュアルを活用することで TRAKTOR KONTROL X1 の主要コンポーネントと機能について習得することができます。新しい機材ですぐにミックスに取り掛かりたい場合気持ちも理解できますが、各解説とチュートリアルを熟読することで効率よく機能を理解することを推奨します。このマニュアルでは上級者用に TRAKTOR KONTROL X1 を活用する方法も紹介しています。

1.2 資料の注釈について

本資料では、特定表記専用フォントを使用して特記事項や、危険事項について解説しています。以下の各アイコンで、特記事項内容を区別しています。



このアイコンの後に表記してある内容には、必ず従ってください。



この電球アイコンでは有効なヒントとなる内容を記載してあります。ここではしばしば機能をより効率よく使用するための解決策が記載されていますが、必ずこれを実行しなければならないという内容ではありません。作業効率を図るためには一度確認しておくことをお勧めします。

更に、以下の書式を使用する場合があります。

- 各（ドロップダウン）メニューで表示される内容 (*Open…*、 *Save as…* 等) 及び、ハードドライブ、またはその他の記録媒体のパスはイタリックで表示されます。
 - 画面に表示される部分に関するテキスト(ボタン、コントロール部、チェックボックス脇のテキスト等) は **ライトブルー**で表示されます。この書体が使用されている場合、同じテキストをコンピュータの画面でも確認できるはずです。
 - ハードウェア自体に表記されている名称は**オレンジ**で表記します。この書体が使用されている場合、同じテキストをハードウェアでも確認できるはずです。
 - 重要な名称とコンセプトは**ボールド**体で表示しています。
- ▶ インストラクションの始めには、それぞれ再生ボタンのような矢印マークが添えてあります。
- 操作の結果を示す場合、小さな矢印が添えられます。

1.3 資料内での各呼称について

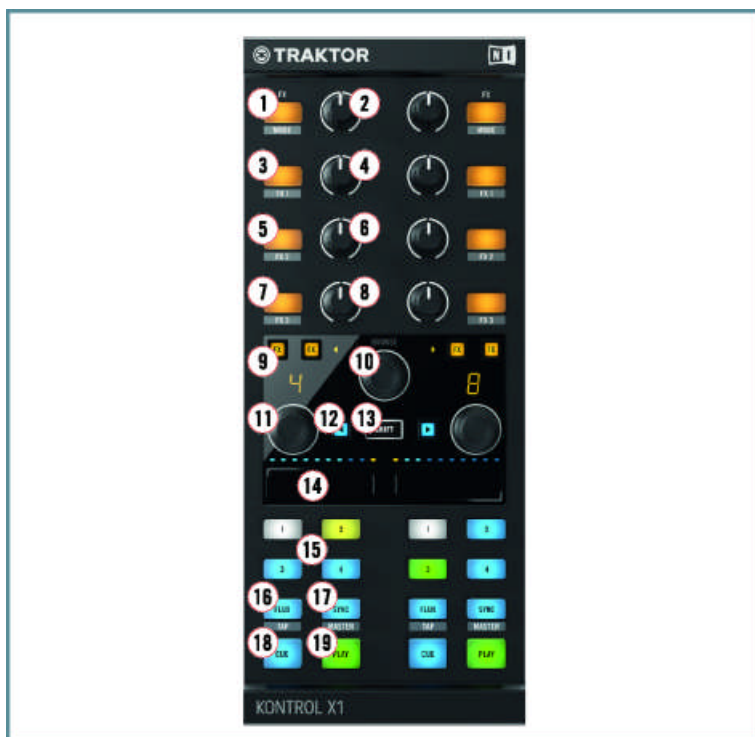
この資料内では TRAKTOR KONTROL X1 のことを X1、TRAKTOR PRO ソフトウェアを TRAKTOR と呼ぶ場合がしばしばあります。

2 TRAKTOR KONTROL X1 ハードウェア

このセクションでは X1 のハードウェアコンポーネントの主要部分の概要を紹介します。

2.1 トップパネル

以下の図は X1 のトップパネルです。機器の左側の番号をふってあるセクションでは各ハードウェアコンポーネントを箇条書きしてあります。デフォルトでは X1 の左側の部分で TRAKTOR のデッキ A をコントロールし、右側では TRAKTOR のデッキ B をコントロールします。



X1 のトップパネルです。

- (1) FX (Mode) ボタン
- (2) FX (Dry/Wet) ノブ
- (3) FX1 ボタン

- (4) FX1 ノブ
- (5) FX2 ボタン
- (6) FX2 ノブ
- (7) FX3 ボタン
- (8) FX3 ノブ
- (9) FX Assign ボタン
- (10) ブラウズエンコーダー (Browse Encoder)
- (11) ループエンコーダー (Loop Encoder)
- (12) Load Left ボタン
- (13) Shift ボタン
- (14) Touch Strip
- (15) HotCue ボタン 1-4
- (16) Flux (Tap) ボタン
- (17) Sync (Master) ボタン
- (18) Cue ボタン
- (19) Play ボタン

2.2 リア・パネル



X1 のリアパネルです。

2.3 TRAKTOR KONTROL X1 モード

TRAKTOR KONTROL X1 を TRAKTOR で使用する際、TRAKTOR KONTROL X1 のデフォルト設定には、下記のように 2 つのモードがあります。

2.3.1 NHL モード

Native NHL モードでは TRAKTOR KONTROL X1 が USB を介して (Native Instruments 独自の NHL プロトコルを使用することで、TRAKTOR KONTROL X1 のノブの動きを MIDI に変換) 直接 TRAKTOR とやりとりします。



通常の TRAKTOR コントロールにはこのモードを使用します。

2.3.2 MIDI モード

TRAKTOR KONTROL X1 は汎用 MIDI コントローラとして使用するように予め設定されており、標準的な MIDI をサポートしているものであれば、どんなハードウェア、ソフトウェアでもコントロールすることができます。

- ▶ MIDI モードにアクセスするには、**SHIFT** を押したまま Load Left と Load Right ボタンを押します。すると、TRAKTOR KONTROL X1 は通常の MIDI コントローラと同様に MIDI データを転送します。



SHIFT、Load Left、Load Right エリアを MIDI モード用に使用します。

- ▶ MIDI モードを解除し、通常の TRAKTOR コントロールに戻るには **SHIFT** と (バックライト、青) Load Left と Load Right ボタンの両方をもう一度押します。
- ▶ TRAKTOR の前バージョン用に TRAKTOR KONTROL X1 の **MIDI マッピング** をカスタマイズするには、TRAKTOR の CONTROLLER MANAGER をご使用ください (*Preferences > Controller Manager*)。



TRAKTOR を使用している最中に、いつでも本来の TRAKTOR コントロール・モードと MIDI モードの間を切り替えることができます。



これら 2 つのモードは、例えば NHL モードで TRAKTOR をコントロールし、**SHIFT** と Load Left / Load Right ボタンを押して MIDI モードにして、MIDI を介して他のソフトウェアやハードウェアをコントロールする、といったように同時に使用することも可能です。

3 TRAKTOR 操作のための X1 の主要機能

この章では X1 で TRAKTOR を操作する方法を、主要機能の各解説とワークフローの解説を交えながら解説します。この章を読み終えるころには、TRAKTOR KONTROL 機器のクリエイティブな活用が可能となるでしょう。

3.1 一次機能と二次機能へアクセスする

デフォルトでは X1 の一次機能を使って TRAKTOR を使用することができます。更に X1 **SHIFT** ボタンと各ボタンを組み合わせることで、X1 の二次機能を使用することができます。これらの機能はマニュアルの各所で紹介します。

3.2 X1 を TRAKTOR に接続する



作業を進めるには、Setup Guide で解説したように、X1 のファームウェアがインストールしてある必要があります。TRAKTOR X1 Setup Guide は Native Instruments からダウンロードすることができます。

X1 と TRAKTOR を接続すると、まず最初に現在のデッキ設定の確認が行われます。デフォルトでは、左 LED ディスプレイが“A”と表示され、デッキ A を X1 の左側でコントロール可能であることを示し、右ディスプレイでは“B”と表示され、デッキ B を X1 の右側でコントロール可能であることを示します。この設定を変更する場合は、Browse または Loop エンコーダーで行います。

- ▶ **BROWSE** エンコーダー、または **LOOP** エンコーダーのどれかを押してデッキ設定を確認します。

→ X1 が点灯すると、操作の準備ができたことを意味します。



Deck assignment for the X1 のデッキアサインメントを選択する際、LED ディスプレイが機器のどちら側が対応するデッキをコントロールするかを表示します。



変更は TRAKTOR 起動時、または一旦接続を解除してもう一度リアパネルの USB 接続を行うことで変更することが可能です。

Deck Setup オプション

デッキ設定のコンビネーションは 4 つで、(または Deck Setup コンビネーション) これらを用いて X1 が TRAKTOR の 4 つのデッキのうちのどれかを使用するか設定することができます。

デッキ A & B (デフォルト)

デッキ C & D

デッキ C & A

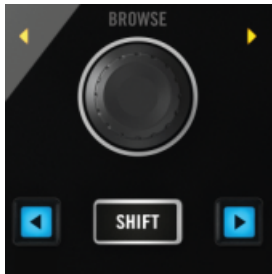
デッキ B & D



上記 4 つのコンビネーション全てで、最初のデッキが X1 の左側に設定され、2 番目のサイン (アルファベット) が X1 の右側に設定されます。デフォルト設定を例にとると (A & B 設定)、デッキ A を X1 の左で、デッキ B を右側でコントロールすることとなります。

3.3 X1 を使用してトラックをブラウズ、ロードする

トラックのブラウズとロード操作は、X1 の中心のエリアで行います。



BROWSE エンコーダー、SHIFT、Load Left & Load Right ボタンです。

以下のインストラクションを参照して、X1 を用いた TRAKTOR トラックのブラウズ、ナビゲート、ロード方法を確認してください。

1. TRAKTOR の Track Collection をスクロールするには、**BROWSE** エンコーダーを左右に回します。
2. 他のコレクション、プレイリスト、TRAKTOR ファイルツリーの他の位置に移動するには、**SHIFT** を押したまま **BROWSE** エンコーダーを回します。選択するために Browse エンコーダーをもう一度押す必要はありません。選択したノード位置で **SHIFT** ボタンを放すことで、その位置でブラウザ作業を進めることが可能となります。

- トラックを選択したら、Load Left または Load Right ボタンのどちらかを押し、SHIFT ボタンのどちらかを押します。Load Left を押した場合、TRAKTOR の左側のデッキにトラックがロードされます (デフォルトでは TRAKTOR デッキ A)。Load Right ボタンを押した場合、TRAKTOR デッキの右側 (デフォルトでは TRAKTOR デッキ B) にトラックがロードされます。



セクション [↑ 3.2, X1 を TRAKTOR に接続する](#) を参照して X1 のデッキコンビネーションを確認してください。

Load ボタンの二次機能

2 つの Load buttons には以下の二次機能があります。

- SHIFT と同時に Load Left ボタンを押すことで TRAKTOR の Snap モードが起動します。このモードは TRAKTOR のマスターパネルにあり、スナップモードを起動すると、トラック上で作成されるキューポイントは指定した場所に一番近いビート部分にキューポイントを作成し、次回ホットキューボタンを押すとこのビート位置に移動します。
- SHIFT と同時に Load Right ボタンを押すことで TRAKTOR の Quantize モードが起動します。TRAKTOR のマスターパネルにあるクオンタイズモードをオンにすることで、トラック中を移動しても (例、ホットキューボタンを押す、または波形表示部分の任意の部分をクリックする) ビートマッチした状態となり、現在保たれている同期の状態を崩すことはありません。

3.4 デッキコントロール

3.4.1 Split モードで Touch Strip を使用する

X1 の Touch Strip は TRAKTOR の各デッキを同時にコントロールする場合に使用し、これを Split Mode といいます。このモードでは Touch Strip アサインセクションがセンターエリアに配置され、2 つのデッキのコントロール区分が示されます。



Split Mode モードで Touch Strip アサインエリアには 2 つのオレンジのドットが表示されます。この Touch Strip セクションを押すと、これらのドットが明るく表示され、Touch Strip のサイズ変更が可能な状態になったことを示します。



Split Mode の Touch Strip です。

以下は X1 のデフォルトデッキコンビネーション A & B を使用した場合の例です。

(1) このエリアでデッキ A をコントロールします。

(2) このエリアでデッキ B をコントロールします。

以下の順序で、Split Mode 時の X1 の Touch Strip を試してください。

1. TRAKTOR のデッキに 2 つのトラックをロードします。
2. プレイを押す前に、指で Touch Strip の左右セクションをなぞってください。

→ TRAKTOR ソフトウェアに目を向けると、対応する TRAKTOR デッキの再生開始位置が移動するのが確認できます。



これにより適切な再生開始位置への移動や、応用してスクラッチやスピンバックに活用することができます。

3.4.2 Touch Strip の一次機能

Touch Strip の一次機能には以下の 2 機能があります。

- ▶ トラックが再生中であれば、Touch Strip の Track Deck セクションに触れることでピッチベンド機能を果たします。



デッキの FLUX ボタンを起動することで興味深い結果を得ることができます。詳細はセクション [↑ 3.5.5, FLUX ボタン](#)を参照してください。

- ▶ トラックが再生中でない場合は、Touch Strip の Track Deck セクションに触れることでトラックの再生開始位置が移動します。



スクラッチプレイに便利です。

3.4.3 Touch Strip の二次機能

Touch Strip の二次機能には以下の 2 機能があります。

- ▶ トラックが再生している状態で、**SHIFT** + Touch Strip の対応するトラックデッキセクションに触れることでスクラッチプレイが可能となります。

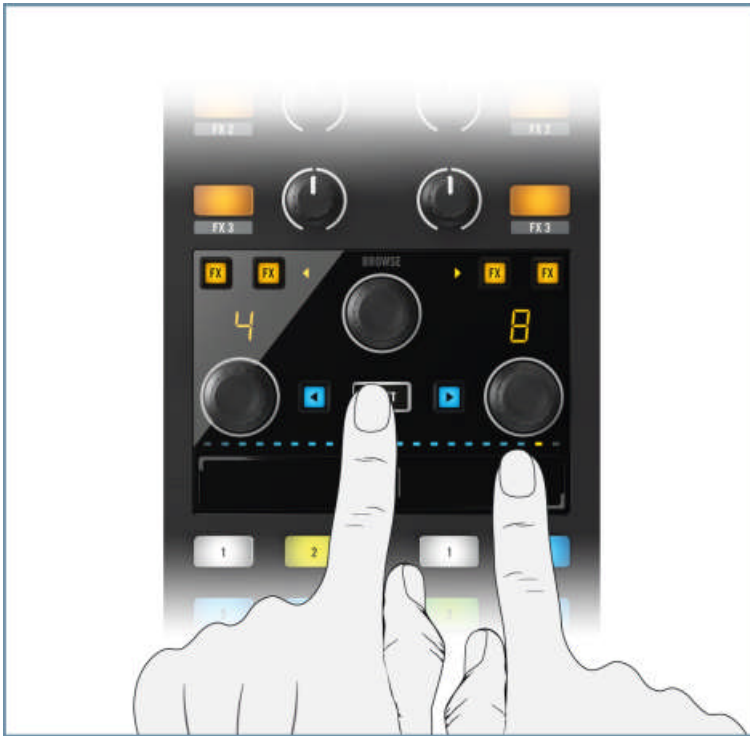


デッキの FLUX ボタンを起動することで興味深い結果を得ることができます。

- ▶ トラックをロード、再生していない状態で、**SHIFT** + Touch Strip の対応するトラックデッキセクションに触れることでトラックのシークスルーが可能となります。



この機能で素早くトラック内を移動することができます。この機能はトラックのブレイクダウンやアウトロに移動する際に特に有効です。



SHIFT を使用することで Touch Strip 上でのニードルドロップが可能となります。



デフォルトの Split Mode で Touch Strip が使いこなせるように練習してください。LED ディスプレイの表示に慣れ、フェイズ修正ができるようになり、TRAKTOR での挙動が把握できるようになれば便利です。

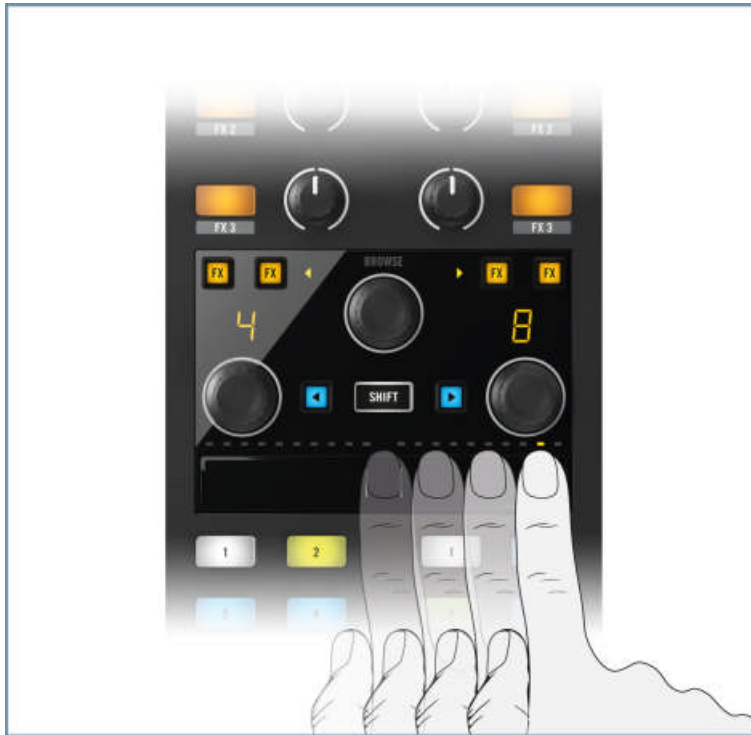
3.4.4 Touch Strip (Single Mode) のサイズ修正

X1 の Touch Strip で TRAKTOR の各デッキを (Single Mode の場合) コントロールできるので、Touch Strip の使用エリアを単一デッキに対して使用することで更なる制御性を得ることができます。Touch Strip ストリップで個別の TRAKTOR デッキを操作する方法は以下となります。

1. Touch Strip アサインセクション (Touch Strip 上部のオレンジの点が表示される場合は現在 Split Mode であることを意味します) に指を置きます。Touch Strip 上のオレンジの点は光った状態となります。



2. 以下のように指を右端に移動することで、左デッキを拡張、左端に移動することで右デッキが拡張します。



Single Mode で TRAKTOR デッキを切り替える

Touch Strip が Single Mode の場合、TRAKTOR デッキを切り替える方法は以下となります。

1. Touch Strip のオレンジの点の下に指を置きます。Touch Strip の上の LED ストリップがオレンジの点を表示します。
2. Touch Strip の反対側の方向に押したままの指を移動させます。X1 の Touch Strip はこの動作で TRAKTOR デッキを切り替えます。

Touch Strip を Split Mode にサイズ変更する

ここでは Touch Strip をデッキ A にモード変更してあるものとし、Split Mode に戻す方法を説明します。

1. Touch Strip のオレンジの点の下に指を置きます。Touch Strip の上の LED ストリップがオレンジの点を表示します。
2. 指を真ん中に戻し、指を放します。X1 の Touch Strip はこの動作で Split Mode に戻ります。



これら 2 つの HotCue モード切替に慣れておき、DJ プレイ中にも自然にできるようになっておくと良いでしょう。

3.4.5 Scratch Control で Touch Strip を使用する

TRAKTOR のデッキをコントロールする際にターンテーブルを使用する場合は、X1 の Touch Strip を Split Mode または Single Deck モードで使用することで、直感的なツール機能を活用することができます。

ミックス中のナッジ/ピッチベンド調整

二次機能であるシーク機能を使ったトラック内の移動

FX のアサイン

ループのアサイン

- 詳細はこのマニュアルの附録セクション [↑5.1.3, FLUX ボタン](#) を参照してください。



Scratch Control の使用に関しては TRAKTOR マニュアルを参照してください。

3.5 トランスポートセクション (再生、HotCues、Flux、Sync Control) の使用

X1 のトランスポートセクションはデバイスの下部にあります。デフォルトでボタンの左部分で TRAKTOR のデッキ A をコントロールし、右部でデッキ B をコントロールします。このトランスポートセクションでは以下のコントロールが可能です。

再生

キュー

HotCues

デッキシンク (& Master) 機能

Flux モード (& Tap モード)

このセクションではトランスポートセクションの各ボタンの機能について解説します。 RGB ボタンと TRAKTOR ソフトウェアでの反応や、各ボタンでの二次機能について解説します。



X1 のトランスポートセクションです。

▶ X1 のロード (Load) ボタンを使用して TRAKTOR の各デッキにトラックをロードします。

→ トランスポートエリアのボタンが反応して瞬時に点灯します。

3.5.1 HotCue ボタン

X1 のトランスポートエリアの HotCue ボタンには 1-4 までの番号が振ってあります。これらの RGB バックライトボタンは TRAKTOR のキューボタンの色に対応しています。

青: キューポイント

緑: ループ

黄: ロード

オレンジ: フェードイン/アウト

白: グリッドマーカー



TRAKTOR は Beat Grid の位置を HotCue ポイントとして保存します。多くのトラックに白いボタンが設定されるのはこのためです。

HotCue ポイントの設定

X1 を使用して新規 HotCue を作成する方法は以下です。

- ▶ バックライトがついていない HotCue ボタンの一つを押します。

→ 選択した HotCue ボタンが青く点灯します。

X1 を使用したループの保存

X1 を使用したループの保存方法は以下です。

- ▶ TRAKTOR (緑でハイライト表示されたループセクション) のループモードを連動させるには、バックライトがついていない HotCue ボタンを押します。

→ 選択された HotCue ボタンが緑に点灯し、ループがそこに保存されます。



Track Deck (または Remix deck) に対応する X1 上の HotCue ボタンは 4 つですが、TRAKTOR の環境設定で設定を行うことで、TRAKTOR で使用できる 1-4、5-8 のボタン全てを活用できるようになります。詳細は [↑ 5.1.3. FLUX ボタン](#) を参照してください。



保存したキューポイントやループ等を削除するには、**SHIFT** ボタンを押し長さ削除したい HotCue ボタンを押します。するとボタンが消灯します。

TRAKTOR の Remix Decks の使用

X1 を使用した TRAKTOR の Remix Decks のコントロール内容は以下となります。

HotCue Buttons 1-4 (デフォルト) では以下のように機能します。

Remix Deck が空の場合、セルの上段部が起動します。

Remix Deck の起動しているセルとは、スロットで一番最後にトリガーしたサンプルの事を指します。カラム 1 の 3 番目のサンプルをトリガーした場合、HotCue 1 ボタンでは 3 番目のサンプルをトリガーします。以下は Remix Deck セルを**トリガー**する方法です。

- ▶ HotCue ボタンを押します。

→ 対応する Remix Deck セルが再生を開始します。

Remix Deck セルを**ミュート**する方法は以下です。

- ▶ 対応する HotCue ボタンをもう一度押します。

→ X1 の HotCue ボタンが点滅し、ミュートの状態であることを示します。

起動している Remix Deck セルの**再生を止める**方法は以下です。

- ▶ **SHIFT** + 対応する HotCue ボタンを押します。

→ これでセルが停止します。

Remix Deck セルを**削除する**方法は以下です。

- ▶ **SHIFT** + 停止している状態のリミックスセルを押します。

→ RGB HotCue ボタンが消灯します。

空の Remix Deck セルに**新規サンプルを取り込む**方法は以下です。

- ▶ ブラウザでサンプルを選択するには、**SHIFT** + 空の HotCue ボタンを押してサンプルをコピーする、または TRAKTOR デッキの再生中に空の HotCue ボタンを押すことでセルにサンプルをロードします。

→ サンプルがコピーまたはサンプリングされると、RGB HotCue ボタンが点灯します。



Remix Deck のサンプル使用時に TRAKTOR のエフェクトやループ機能を使用することで応用してください。

TRAKTOR の Remix Decks の詳細は TRAKTOR マニュアルを参照してください。

3.5.2 PLAY ボタン

各 **PLAY** ボタンを押すことで対応する TRAKTOR デッキを再生します。トラックが再生中の場合、**PLAY** ボタンを押すとデッキを一時停止します。

3.5.3 CUE ボタン

CUE ボタン機能は、トラックの再生中と停止中では異なる機能を果たします。

- デッキの停止中に **CUE** を押すと、その位置に白い Cue Marker (キューマーカー) を配置します。白い Cue Marker がその場所に既にある場合は、CUE (CUE ボタンを放すとそのキューマーカーの位置に戻り、再生を停止します。) を押している間のみ再生を続けます。
- デッキの再生中に **CUE** を押すと、再生が停止し、Cue Point (キューポイント) に移動します。

3.5.4 SYNC (MASTER) ボタン

X1 の **SYNC** ボタンで現在再生しているトラック (**MASTER**) のテンポ (BPM) に自動的に同期します。

- ▶ **MASTER** デッキにしたい再生中のデッキのトラックの BPM に、トラックのテンポを同期させたい場合は、対応するデッキの **SHIFT** + **SYNC** ボタンを押します。

X1 で BPM を調節する

ループエンコーダーと **SYNC** ボタンを使用することで便利な二次機能を使用することができます。

- ▶ **SYNC** ボタンを押しながらループエンコーダーを回すことでトラックの BPM カウントを詳細設定することができます。エンコーダーを押しながら回すことで BPM を大きく変更することが可能となります。



エンコーダーを回さずに押して放すことで、テンポが 0.0% (オリジナルテンポ) に戻ります。

3.5.5 FLUX ボタン

FLUX ボタンを押すことで TRAKTOR の Flux モードが起動します。Flux モードでトラックのフレーズ感を損なうことなくキューポイント間やループを移動することができるようになります。X1 の **FLUX** ボタンの性質は TRAKTOR の環境設定 (preferences) で変更することができます。詳細はセクション [↑5.1.3, FLUX ボタン](#) を参照してください。

デフォルトでは **FLUX** の二次機能は **TAP** モードです。

- ▶ トラックの BPM を手動で調節するには、**SHIFT** を押しながら対応する **FLUX** ボタンをタップします。



この機能はトラックが一定のテンポを持たない場合に有効な機能です。

3.6 Loop Encoders の使用

X1 には 2 つのループエンコーダーがあります。LED ディスプレイはループのサイズを表示します。基本的なループ使用のためのテクニックは以下となります。

1. ループエンコーダーを左に回し (ループのサイズを短くします)、右に回してください(サイズが長くなります)。LED ディスプレイの値もサイズ変更値に対応して変化します。
2. ループサイズを選択したら、ループエンコーダーを押してループを起動します。LED が点滅します。
3. ループモード時にループエンコーダーを回してループサイズを変更します。この機能は DJ プレイ中に使用するとクリエイティブな効果を発揮します。
4. ループエンコーダーをもう一度押してループを解除します。ループディスプレイの点滅が停止します。

ループを Touch Strip にアサインする

Touch Strip を使用して TRAKTOR デッキのループをコントロールすることができます。

1. Touch Strip アサインエリアに軽く指を押し当て、ループエンコーダーを押します。Touch Strip アサインエリアはモード (Split Mode または Single)によって異なります。対応する LED ディスプレイが 3 つのオレンジで LED とともに点灯し、Touch Strip エリアの上の LED が青くなり、ループがアサインされたことを示します。



2. Touch Strip に触れるとループが起動、ループサイズもここで調節可能となります。指を左に動かすとループサイズが小さくなり、右に移動するとループが大きくなります。
3. Touch Strip から指を放すと、トラックが通常再生に戻ります。
4. Touch Strip でループモードがアサインしてある間は、Touch Strip をタップ、または触れることでいつでもループを起動することができます。

Touch Strip のアサイン解除

- ▶ ループコントロールから Touch Strip を解除するには Loop Encoder を押します。

→ 対応する LED ディスプレイの点滅も消灯します。



Touch Strip にループがアサインしてある状態で Touch Strip 上で指を動かすことでループサイズを変更し、クリエイティブな結果を得ることが可能となります。



Flux Mode を起動した状態でこの機能を試すのも良いでしょう。

3.7 エフェクトセクション

X1 は TRAKTOR の強力なエフェクトの効果を最大限に引き出すために設計されています。このセクションでは 3 つのエフェクトの使用方法を解説します。TRAKTOR エフェクトに関しては TRAKTOR マニュアルを参照することを推奨します。



X1 の FX セクションです。

3.7.1 エフェクトのアサイン

X1 の両サイドには同一のエフェクトセクションを配置しており、TRAKTOR のエフェクトユニットに対応します。X1 の両側に、4 つの **FX** ボタン (一番上は **FX-MODE** ボタンです) があり、対応する 4 つのエフェクトノブがあります。

TRAKTOR はエフェクトオプションとして *Single* と *Group* (3 つのエフェクトを使用可能です) エフェクトオプションを各デッキに用意しています。

エフェクトユニットに TRAKTOR デッキをアサインする方法は以下です。

- ▶ **BROWSE** エンコーダーの左右にある FX Assign ボタンを押し (デバイスの両側に 2 つあります) ます。左側の **FX** Assign ボタンを押すと、選択した TRAKTOR デッキが X1 の左側のエリアにアサインされ、右側の **FX** Assign ボタンを押すとデッキは右の FX エリアにアサインされます。

→ **FX** Assign ボタンがオレンジに点灯します。

デフォルトで X1 では 2 つの TRAKTOR エフェクトユニットを使用可能な状態となっています。TRAKTOR エフェクトユニット の内容は X1 初回接続時のデッキアサイン設定によって異なります。

以下はデッキコンビネーションと対応するエフェクトユニットアサインです。

Decks A & B (デフォルト) で TRAKTOR エフェクトユニット 1 と 2 をアサインします。

Decks C & D で TRAKTOR エフェクトユニット 3 と 4 をアサインします。

Decks C & A で TRAKTOR エフェクトユニット 3 と 1 をアサインします。

Decks B & D で TRAKTOR エフェクトユニット 2 と 4 をアサインします。



上記のコンビネーション全てに次のことが当てはまります。各コンビネーションの最初のデッキが X1 の左側に配置され、対応するエフェクトユニットはその上の FX エリアに配置されます。同様にコンビネーションの 2 番目のデッキが、対応するエフェクトユニットとともに X1 の右側に配置されます。



FX アサインボタンの両方を押すことで TRAKTOR の対応するエフェクトユニットの両方を起動します。



追加 X1 を使用する場合、TRAKTOR の全エフェクトを使用することができます。詳細はセクション [↑3.7.4, 2 台目の X1 コントローラーの FX を使用する](#) を参照してください。

3.7.2 TRAKTOR のエフェクトをトリガーする

TRAKTOR のデッキヘッダの上にはエフェクトユニットがあります。



確認できない場合は、TRAKTOR の上部のツールバーで Mixer viewing モードを選択してください。

以下のチュートリアルを参照し、X1 を用いたエフェクトのアサイン方法と操作方法を把握してください。

1. では、TRAKTOR デッキ A /B をアサインした X1 で、デッキ A にトラックをロードして再生してください。
2. TRAKTOR のエフェクトユニット 1 と 2 で *Single Mode* を選択、異なるエフェクトを選択してください。
3. 左の **FX Assign** ボタンを押します。ボタンがオレンジに点灯します。
4. **FX** が 12 時の方向になっているか確認してください。
5. X1 の上部左にある一番上の **FX (Mode)** ボタンを押します。ボタンがオレンジに光り、TRAKTOR のエフェクト効果がある状態でトラックが再生されているのが確認できます。
6. 一番上の **FX (Dry/Wet)** ノブを左に回します。エフェクト効果が薄れるのが確認できます。
7. **FX (Dry/Wet)** ノブを右に回します。再生中のトラックにエフェクト効果がより強く反映されるのが確認できます。**FX** ノブを更に右に回すと、トラックへのエフェクト効果が更に増します。
8. エフェクトを解除するには、**FX (Mode)** ボタンをもう一度押す、または **FX Assign** ボタンをもう一度押します。ここでは、**FX Assign** ボタンをもう一度押します。
9. では、右の **FX Assign** ボタンを押してデッキ A に TRAKTOR のエフェクトユニット 2 をアサインします。**FX Assign** ボタンがオレンジに点灯します。
10. X1 の右上隅にある **FX (Mode)** ボタンを押します。ボタンがオレンジに光り、トラックに TRAKTOR エフェクトユニット 2 の効果が付加されたのが確認できます。
11. 上記と同様に **FX** ノブを左右に回すことで、エフェクトの Dry/Wet パラメーターをコントロールします。



TRAKTOR の **FX Assign** ボタンの両方を押すことで、TRAKTOR のエフェクトユニットの 2 つを単一のデッキで同時に使用することができます。

TRAKTOR のエフェクトユニットを *Group* モードにすることで、X1 を操作してエフェクトの可能性を最大限に引き出すことができます。

TRAKTOR エフェクトユニットを Single Mode から Group モードに切り替える方法は以下です。

- ▶ **SHIFT** + 対応する X1 の **FX (MODE)** ボタンを押すことで TRAKTOR エフェクトユニットが *Group* モードに切り替わります。

X1 で Group モードの TRAKTOR エフェクトユニットをコントロールする方法は以下となります。

- ▶ **FX** ボタン (起動するとオレンジに点灯します)1-3 のどれかを押し、*Group* 内の対応するエフェクトを選択します。隣の **FX** ノブで選択したエフェクトの適用値を設定します (Dry/Wet)。



3 つの FX ボタン (1-3) を起動することで興味深い効果を得ることができます。同様に、デッキの 2 番目の FX Assign ボタンを起動することで 2 番目の TRAKTOR エフェクトユニットが起動し、より複雑な効果を得ることができ、それらを X1 でコントロールすることができます。



TRAKTOR のマニュアルを参照して TRAKTOR エフェクトの更なる知識を得ることを推奨します。X1 を使った TRAKTOR エフェクト効果の実験を行うのも良いでしょう。

X1 を使った TRAKTOR エフェクトのアサイン

手軽に操作できる X1 を駆使して TRAKTOR のエフェクトを手動で選択することもできます。操作方法はモード (Single または Group)によって多少異なります。

TRAKTOR エフェクトが **Single モード**の場合

- ▶ **SHIFT** を押しながら X1 の上部にある **FX (Dry/Wet)** ノブの一つを動かすことで対応するエフェクトユニットの TRAKTOR のエフェクトをスクロールすることができます。

TRAKTOR エフェクトが **Group モード**の場合

- ▶ **SHIFT** + **FX** ボタン (1-3) を押すことでエフェクトを個別に切り替えることが可能となります。
- ▶ **SHIFT** + **FX** ノブを回すことで TRAKTOR のエフェクトを切り替えることができます。



この動作を行っている最中にコンピュータ上の TRAKTOR ソフトウェアを確認することで TRAKTOR エフェクトユニットがどう切り替わっているか確認することができます。

3.7.3 Touch Strip に FX をアサインする

Single または *Group* エフェクトユニットモードのどちらの場合でも、X1 の Touch Strip にエフェクトをアサインすることでエフェクトコントロールの幅が広がります。Touch Strip にアサインを行うことで、このコントロールサーフェスがエフェクトノブパラメーターの代わりとなり、エフェクト効果をコントロールできるようになります。以下では Touch Strip アサインの方法を解説します。

1. Touch Strip アサインエリアに軽く指を押し当てます(デッキが Split Mode モードの場合は、2 つのオレンジの点が Touch Strip の中心部上に表示され、Single Mode の場合は Touch Strip エリアの脇のどちらかにオレンジの点が表示されます)。
2. FX ボタン 1-3 のどれかを押します。 ボタンがオレンジに点滅し、Touch Strip エリアにエフェクトパラメーターがアサインされたことを示します。

3. ここまでで、Touch Strip の上の LED の点の数が変わったことに気付くはずです。この数は選択したエフェクトのステップ数を示します。殆どの TRAKTOR のシングルエフェクトは3つのパラメーターの部を装備しています（例外もあります）。ですから、TRAKTOR に目を向けると、X1 の3つのボタン全てを使用できる状態か(あるいはできないかを)確認することができます。



4. Touch Strip エリアで指を動かし、アサインしたエフェクト量を調節します。Touch Strip から指を放すとエフェクト効果がなくなります。リバーブ等の残響音は指を放しても鳴り続ける場合があります。点滅している FX ボタンをもう一度押すまで、エフェクトは Touch Strip にアサインされたままとなります。



X1 上部にある FX (Dry/Wet) ノブで対応する TRAKTOR エフェクトユニットの全体適用量を調節します。Touch Strip を使用し、対応する FX (Dry/Wet) ノブの調整をスムーズに行えるように練習してください。

3.7.4 2 台目の X1 コントローラーの FX を使用する

2 台の X1 コントローラーを使用することで TRAKTOR エフェクトの可能性が更に広がります。2 台目の X1 のエフェクトが使用できる状態に設定する方法は以下です。

- ▶ **SHIFT + FX** Assign ボタンを押します。左側の **FX** Assign ボタン (on either side of the X1 device) は 2 台目の X1 の左の FX エリアにアサインされ、右の FX Assign ボタンを押すことで 2 台目の X1 の右の FX エリアにアサインされます。

デッキのコンビネーションと対応する TRAKTOR エフェクトユニットのリストは [↑3.7.1, エフェクトのアサイン](#) にあります。



2 台目の X1 コントローラー 2 エフェクトをアサインする方法は 1 台目の X1 コントローラーに対して行った方法と同じです。



2 台の X1 デバイスを使用することで、4 つの TRAKTOR エフェクトユニットを使用できるようになります。



2 台目の X1 コントローラーの使用中は、他のデバイスの Touch Strip にエフェクトをアサインすることができなくなります。

4 ハードウェアリファレンス

このセクションでは X1 の全コンポーネントについて触れています。各コンポーネントの詳細も解説しています。

4.1 トップパネル



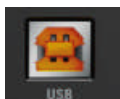
X1 のトップパネルです。

4.2 リアパネル



X1 のリアパネルです。

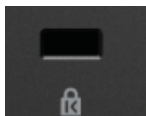
USB インプット



X1 のリアパネルにある USB スロットです。

X1 は同封している USB ケーブルを用いてコンピュータに接続する必要があります。

ケンジントンロック



リアパネルのケンジントンロックポートです。

このメタルで補強してあるホールを使って鍵をつけることで機材を盗難から防ぎます。

4.3 トランスポート・セクション

CUE



CUE ボタン

デッキの停止中に **CUE** を押すと、その位置に白い Cue Marker (キューマーカー) を配置します。 白い Cue Marker がその場所に既にある場合は、CUE (**CUE** ボタンを放すとそのキューマーカーの位置に戻り、再生を停止します。) を押している間のみ再生を続けます。 デッキの再生中に **CUE** を押すと、再生が停止し、Cue Point (キューポイント) に移動します。

PLAY



PLAY ボタンです。

各 **PLAY** ボタンを押すことで対応する TRAKTOR デッキを再生します。トラックが再生中の場合、**PLAY** ボタンを押すとデッキを一時停止します。

FLUX (TAP)



FLUX ボタン

FLUX ボタンを押すことで TRAKTOR の Flux モードが起動します。Flux モードでトラックのフレーズ感を損なうことなくキューポイント間やループを移動することができるようになります。このモードの詳細は [↑ 3.5.5, FLUX ボタン](#) を参照してください。

FLUX ボタンの二次機能 **TAP** は以下のように起動します。

- ▶ **SHIFT + FLUX (TAP)** タップすることで、対応する TRAKTOR デッキのトラックテンポを手動で入力することができます。

SYNC (MASTER)



SYNC ボタンです。

X1 の **SYNC** ボタンで TRAKTOR デッキの TRAKTOR SYNC モードを手動で起動 (または起動解除) することができます。

二次機能、または **MASTER** は以下のように起動します。

- ▶ **SHIFT + SYNC (MASTER)** を押すことで、対応するトラックデッキをマスターデッキとしてアサインし、TRAKTOR が同期機能を起動します。

SYNC ボタンはデッキのテンポを調節するために使用することも可能です。

- ▶ **SYNC** + 対応する Loop Encoder を回すことでテンポ調整ができます。

HotCue ボタン



HotCue ボタン 1-4 です。

X1 のトランスポートエリアの両側には 1-4 までの番号が振ってある部分があります。これらの RGB バックライトボタンは TRAKTOR のキューボタンの色に対応しています。これらのボタンは TRAKTOR の Track Deck または Remix Deck モードに対して使用でき、状況によって性質が異なります。HotCue ボタンの使用方法の詳細はセクション [↑ 3.5.1, HotCue ボタン](#) を参照してください。

4.4 FX セクション

FX Assign ボタン



FX アサインボタンです。

X1 のトランスポートセクションには、これら 4 つのボタンがあります。これらのうち 2 つは機器の両側に配置しており、アサインされるとオレンジに点灯します。FX Assign ボタンをトリガーすることで対応するデッキに TRAKTOR エフェクトユニットがアサインされます。X1 に TRAKTOR のエフェクトユニットをアサインする方法に関してはセクション [↑3.7.1, エフェクトのアサイン](#) と [↑3.7.4, 2 台目の X1 コントローラーの FX を使用する](#) を参照してください。

FX (MODE) ボタン



FX (MODE) ボタン

FX (MODE) ボタンは TRAKTOR エフェクトユニットが Single モードの場合に使用します。ボタンを押すことで選択したエフェクトを起動（オレンジに点灯します）、起動解除します。

FX (DRY/WET) ボタンの二次機能の起動方法は以下です。

- ▶ **SHIFT + FX (MODE)** ノブを押して対応する TRAKTOR エフェクトユニットモードを切り替えます（エフェクトユニットが Single モードの場合はこの二次機能を使用することでユニットのモードが Group モードに切り替わります）。

FX ボタン



FX1 ボタン

There are three buttons on each side of the X1 の両側にそれぞれ 3 つの **FX** ボタン (**1-3**) があります。TRAKTOR のエフェクトユニットが Group モードとなっている場合は、これらのボタンはグループ内の各エフェクトを起動します。

これらのボタンの二次機能の起動方法は以下です。

SHIFT + FX ボタン (**1-3**) を押すことで Group セクションの次のエフェクトに切り替わります。**SHIFT** を押しながらこのボタンを何回か押すことで有効なエフェクトを一巡します。

FX ノブ



FX ノブです。

X1 の両側にはそれぞれ 4 つの **FX** ノブがあります。各ノブでエフェクト量の調節、または隣の **FX** ボタンのパラメーターを調節します。機器の両側の一番上にある **FX (DRY/WET)** ノブで Single または Group エフェクト全体の適用量を調節します。その他の **FX** ノブで Single TRAKTOR エフェクトの各パラメーターを調節、または Group モードの場合は各エフェクト量を調節します。

Single モードの場合、一番上の FX ノブの二次機能は以下のように起動します。

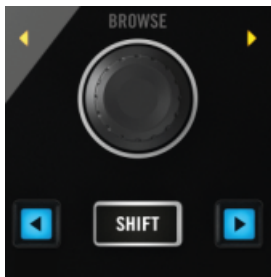
SHIFT + FX を動かすことで TRAKTOR のエフェクトを切り替えます。

Group モードの場合、**FX** ノブの二次機能は TRAKTOR のエフェクトユニットが Group モードの場合のみに起動するので以下の設定が必要となります。

SHIFT + FX ノブ (1-3) を動かすことで対応する Group セクションの TRAKTOR エフェクトが切り替わります。

X1 で TRAKTOR のエフェクトをコントロールする方法は、セクション [↑ 3.7.2, TRAKTOR のエフェクトをトリガーする](#) を参照してください。

4.5 BROWSE、SHIFT、Load



Load、SHIFT、BROWSE ボタンです。

これら 2 つの Load ボタン (青く点灯します) は TRAKTOR デッキにトラックをロードする場合に使用します。左の Load ボタンを押すことで、X1 の左側にアサインしてあるデッキにトラックがロードされます。これらのボタンの二次機能で TRAKTOR の Snap、Quantize モードを起動します。詳細は [↑ 3.3, X1 を使用してトラックをブラウズ、ロードする](#) を参照してください。

SHIFT ボタン

このボタンは X1 上の各コントロール部の二次機能を起動するために使用するボタンです。各二次機能に関してはこのマニュアルの各所で解説しています。

BROWSE エンコーダー



X1 の BROWSE エンコーダーです。

BROWSE エンコーダーボタンは X1 で TRAKTOR のトラックコレクション、プレイリスト内を閲覧するために使用します。デフォルトではトラックコレクション内を上下移動します。

このボタンの二次機能は以下です。

SHIFT を押しながら Browse エンコーダーを回すことで Track Collection とプレイリストファイルツリーを移動します。

SHIFT を押しながら **BROWSE** を押すことでファイルツリーのノードを展開、縮小します。

LOOP エンコーダー



X1 の Loop エンコーダーと LED ディスプレイです。

Loop エンコーダーでループサイズを選択 (LED で値が表示されます) し、ノブを押すことでループモードを起動します。ループが起動している間は LED ディスプレイが点滅します。

このコンポーネントの二次機能は以下です。

SHIFT + どちらかの Loop エンコーダーを回すことで対応する TRAKTOR デッキでニードルドロップを行うことができます。言い換えると、この機能でトラックを素早く移動して再生開始位置を設定することができます。

4.6 Touch Strip



X1 の HotCue エリアです。

TRAKTOR KONTROL X1 の Touch Strip は更なるハンズオンコントロールを可能にします。Touchstrip の使用方法に関してはセクション [↑ 3.4, デッキコントロール](#)、[↑ 3.6, Loop Encoders の使用](#)、[↑ 3.7.3, Touch Strip に FX をアサインする](#) を参照してください。

5 付録

5.1 TRAKTOR KONTROL X1 環境設定 (Preferences)

以下のセクションは X1 の TRAKTOR 環境設定詳細です。



X1 デバイスは TRAKTOR の環境設定では [TRAKTOR KONTROL X1 Mk2](#) と表示されます。



TRAKTOR の X1 Mk2 用環境設定です。

5.1.1 Browse Encoder

デフォルトでは **BROWSE** エンコーダーに触れることで TRAKTOR はフルブラウザに切り替わります。ここのチェックを解除することで **Browse Encoder** を押すことでフルブラウザを表示するようになります。

5.1.2 Touch Strip

デフォルトで X1 の **Seek behavior** は *Seek on Stop* に設定してあり、Touch Strip に触れることで停止している状態のトラックに対してシーク機能を使用することができます。 *Seek Always* に設定することで、再生しているトラックに対しても Touch Strip に触れることで、トラックにシーク機能を使用することができますようになります。



Scratch Control 機能を使用する場合に有効な機能です。

Split Mode: デフォルトで TRAKTOR の環境設定は *Adjustable* に設定してあり、Split Mode または Single Deck アサインモードに切り替えることができます。 *Fixed* を選択することで Touch Strip エリアを Split Mode の状態でのみ使用可能となります。

Assignment: デフォルトでは *Enabled* となっており、Touch Strip エリアに Loop やエフェクトをアサインすることができます。 *Disabled* を選択することでループやエフェクト用の各 Touch Strip アサイン機能を解除します。

Bend Sensitivity: デフォルトでは 50% となっており、Touch Strip がトラックに対してピッチベンドを使用する場合の感度を示します。この値を大きくすることで Touch Strip の感度が上がります(値を小さくするとその逆の効果を得られます)。

Seek Sensitivity: デフォルトでは 50% となっており、トラックシークの Touch Strip 感度を示します。この値を大きくすることで Touch Strip の感度が上がります(値を小さくするとその逆の効果を得られます)。

Invert Bend direction チェックボックスで Touch Strip のコントロール値を逆にします。これにより Touch Strip を左に動かすことでトラックの速度が遅くなり、右に動かすと速くなります。



Invert Bend Direction オプションにチェックを入れるほうがプレイしやすいという DJ もいます。どちらの設定がいいか、試して自分の好みを見つけてください。

Invert Seek direction にチェックを入れることで Touch Strip のシーク時の移動方向が逆転します。これにより Touch Strip を左に動かすことでトラックを早送りし、右に動かすと巻き戻しの状態となります。

5.1.3 FLUX ボタン

デフォルトで X1 の **FLUX** ボタンの **Primary** 機能は TRAKTOR の *Flux Mode* となっています (セクション ↑ 3.5.5, **FLUX** ボタン 参照)。TRAKTOR 環境設定には以下のオプションがあります。

- *HotCues 5-8*。X1 の **FLUX** ボタンを押すことで HotCue ボタン 1-4 が TRAKTOR の 5-8 に切り替わります。



既にトラックデータがある場合、またはトラックに保存したキュー、またはループ情報が保存してある場合は、ボタンの色が変わります。

- ▶ HotCue ボタン 1-4 の使用に戻る場合は、**FLUX** ボタンをもう一度押します。
- *Abs/Rel* この機能は Scratch Control を使用する場合があります。このオプションを選択すると、TRAKTOR デッキのアブソルート、またはリレティブモードが起動します。
- デフォルトで **FLUX** の **Secondary** (二次機能) は **TAP** で、**SHIFT** とともに **FLUX** ボタンを使用することで、トラックのテンポを手動で調整できます。**FLUX** ボタンの **Primary** (一次機能) を別のオプションにした場合、**FLUX** ボタンの二次機能として TRAKTOR の *Flux Mode* を起動する機能が含まれます (**SHIFT** + **FLUX** ボタンで TRAKTOR の *Flux Mode* を起動)。

5.1.4 エフェクトノブ

X1 の Effect Knobs に整合性がない場合は、この **Recalibrate** ボタンを使用します。すると TRAKTOR がキャリブレーションを開始します。

5.1.5 LED

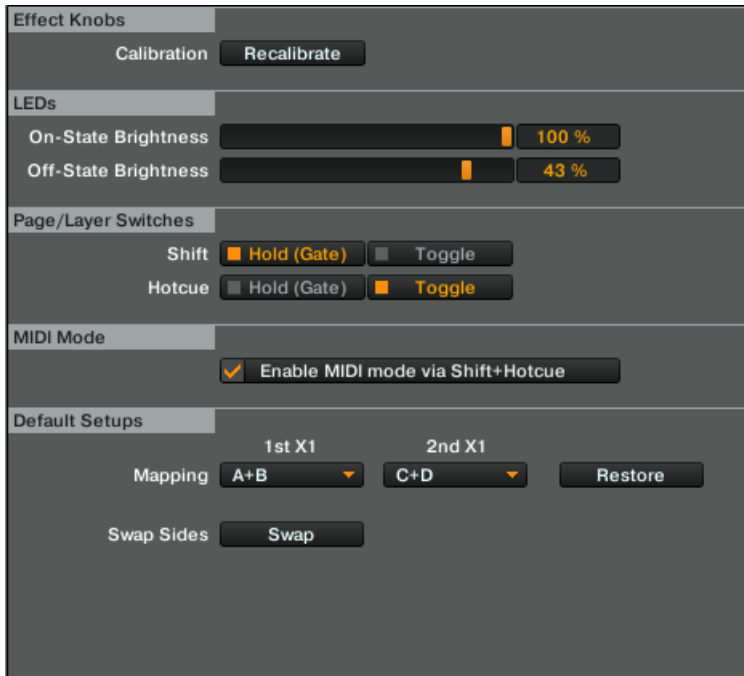
X1 の LED にはボタン用の 2 種類の状態があります。最初は On State を示すもので、起動したことを示します。次が Dim State で、起動解除した状態、または待機中である事を示します。

On State Brightness: FX (MODE) ボタン等が起動したときの X1 の RGB LED の明るさを調節します。

Dim State Percentage: ボタンが起動していない場合に Dim State となります。このオプションで待機中の明るさを調節します。

5.2 TRAKTOR KONTROL X1 Mk1 をセットアップに追加する

既に初期モデルの TRAKTOR KONTROL X1 を使用している方も多くいることでしょうし、初期モデルとともに、セットアップに Mk2 バージョンを追加したい、という方も多くいることでしょう。ここで理解していただきたいのは、両方の機器に対して専用の TRAKTOR 環境設定項目が存在するということです。以下の図は TRAKTOR 環境設定内の TRAKTOR KONTROL X1 の環境設定です。



TRAKTOR の TRAKTOR KONTROL X1 用環境設定です。

TRAKTOR KONTROL X1 を使用して 4 つの TRAKTOR デッキを使用する方法は以下です。

1. TRAKTOR の TRAKTOR KONTROL X1 環境設定に進みます。
2. Default Setups で 1st X1 と 2nd X1 のマッピングオプションを C+D にします。

→ デフォルトでは、TRAKTOR KONTROL X1 Mk2 が TRAKTOR デッキ A + B をコントロールし、Mk1 バージョンで TRAKTOR デッキ C + D をコントロールできる状態となります。



2 台の X1 を使用することで両方の TRAKTOR デッキをコントロールできるようになり、エフェクトの可能性も広がります。

索引

ケンジントンロック [36]

デッキコンビネーション [13]

トップパネル [35]

トラックのロード [13]

トランスポートセクション [20]

BPM 調節 [24]

CUE [23]

FLUX [24]

HotCue [21]

SYNC [24]

TRAKTOR の Remix Decks の使用 [22]

リアパネル [36]

BROWSE エンコーダー [13]

Deck Setup [13]

Effects [27]

2 台の X1 コントローラーで FX を使用する
[33]

FX (Mode) [39]

FX Assign [38]

FX ノブ [39]

Touch Strip アサイン [28] [30]

TRAKTOR エフェクトユニット [28]

Triggering [29]

Load ボタン

Snap/Quantize [14]

Loop Encoders [25]

Touch Strip アサイン [25]

Touch Strip のアサイン解除 [26]

MIDI Mode [11]

Quantize [14]

SHIFT [41]

Snap Mode [14]

Split Mode

Touch Strip [14]

Touch Strip [14]

Resize [17] [19]

Scratch Control [20]

一次機能 [16]

二次機能 [16]

TRAKTOR preferences

X1 Mk1 [45]

X1 Mk2 [43]

USB インプット [36]